



市制施行100周年・核兵器廃絶都市宣言40周年記念 「ヒロシマ原爆・平和展」開催結果



2024年8月 定例市長記者会見
配布資料 1 総務部総務法務課

開催結果

- 開催期間 令和6年7月18日（木）～7月31日（水）（12日間）
- 会場 けんしん郡山文化センター 1階 展示室
- 展示物 148点

- オープニングセレモニー 来場者 235名
- 「郡山戦災史」朗読
- 被爆体験講話

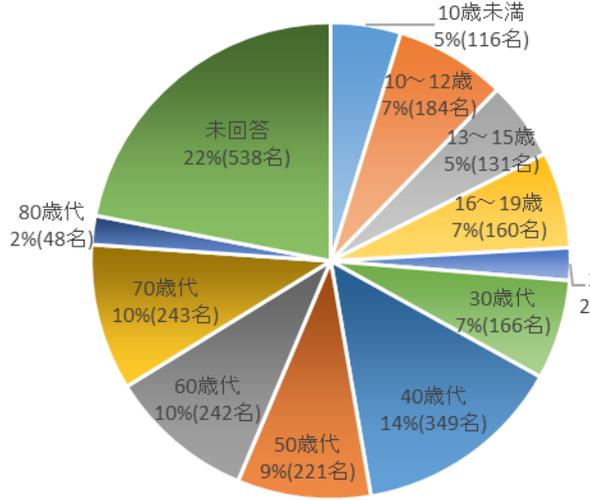
演題：8歳の記憶「ヒロシマ」
講師：被爆体験証言者 八幡 照子様



爆心地から2.5km離れた自宅から出掛けようとしたときに裏庭で被爆した体験を語る八幡様

- 開催日 令和6年7月20日（土）
- 会場 けんしん郡山文化センター 5階集会室

○来場者 **2,452名**（1日平均204名）



【来場者（年代別）区分】

- ・ 全世代の方にバランスよくご来場いただいた
- ・ 40歳代が最も高い全体の約14%を占めた
- ・ 19歳未満の方が全体の約24%を占め、関心が高い

来場者の声【アンケート抜粋】

- 展示を見学して
 - ・ 戦争の悲惨さを詳しく目で知ることができてよかった。（13～15歳）
 - ・ VRで見ることで、当時の惨状を深く理解できた。（40歳代）
 - ・ 涙が止まらなかった。（50歳代）



3歳の男の子が被爆した時に乗っていた三輪車を見る中学生

- 「郡山戦災史」朗読を聴いて
 - ・ もし私がそこにいたらということを想像したらとても恐ろしいものだと感じることができた。（16～19歳）
 - ・ 死ぬ恐怖の中で生活していた。戦争は二度と起こしてはいけない。（70歳代）

- 被爆体験講話を聴いて
 - ・ 命を大切にしようと思った。精一杯生きようと思った。（13～15歳）
 - ・ 八幡さんの話を聞いて、本当に日本で起こったことなのだと実感した。平和な未来のために、もっと自分事として向き合わないといけないと思った。（16～19歳）



橘小学校放課後児童クラブの児童が自分で書いた平和へのメッセージを見ている様子

- 全体の感想
 - ・ 戦争の悲惨さと辛さを戦争を知らない人たちに伝えていきたいと思った。（16～19歳）
 - ・ 今ある日常が当たり前にあることに幸せを感じながら生活していきたいと思う。（16～19歳）
 - ・ 親になった今の目線で考えると、改めて子どもに同じ思いをさせたくないと感じた。（40歳代）



原爆投下から復興までのVR被爆映像体験を行っている様子

※今後、開催結果等について、LINE、ウェブサイト等を通じて配信